

2012 年 2 月 9 日  
山口県家庭教育学会創立 10 周年研究大会  
第 3 部 「今、こどもたちから求められている支援は」

山口県立大学国際文化学部教授 ウィルソン・エイミー



今回の第 3 部会では、中学生と大人が一緒になって、中学生は自分たちが現在置かれている状況についてどんな困難さを感じているのか、また、どのような支援を必要と考えているのか、さらには、子どもたちの声を聞いた上で、子どもの健全な育成のために大人は何をすべきかについて尋ねるためのワークショップを開いた。

近年、日本の子どもの発達に関する研究、行事、活動などの多くは、リスク・マネジメントに関するものへと移行してきている。子どもをいじめや虐待から守る対策、栄養の偏りの激しい子どもに対してアンバランスな成長を防ぐための指導方法、過激的なゲームやメール・インターネット中毒への対策、学力低下や貧困による学習障害などについて頻繁に取り上げられている。問題が起こってから対策はもちろん必要だが、このような問題が起きる前に、子どもの楽しい育て方（ルール決め方・守り方）、接し方（役割の与え方）、子どもとのコミュニケーション（褒め方、認め方、対等な話した方など）の取り方などについて、近年アメリカでは Positive Youth Development（ポジティブ・ユース・デベロップメント：前向きな青少年の発達）が着目されている。

家庭教育学会の研究大会報告書等でご紹介してきた「40 発達資産」などを発案したサーチンスティチュートやその他の研究機関は、子どもの良い所を引き出すためには大人たち（家庭、学校、地域、行政）がどのように動くべきかを考えるようになっている。

ポジティブ・ユース・デベロップメントを促すためにサーチンスティチュートが提示しているものに、5 つのアクション・ストラテジー（行動戦略）がある。これらの 5 つの行動を起こすことで、地域社会全体を変えることに成功した例がいくつかもあげられる。

日本でも類似のアクションがみられるが、アクション 2「子どもを巻き込む」はほとんど見受けられない。多くの子育て支援の場面（家庭、地域、学校、行政）では、親・地域リーダー・学校教職員・行政の方たちが子どもの意見を直接聞くことなく支援対策などを決める傾向がある。中高生に特有な意欲や想像力、活力をもって声を出したいという気持ちを取り入れず、大人のほうが「受験がある」、「クラブ活動で忙しい」、「まだ子どもだから」という理由で、力を発揮できる場を与えていない。その一方、大学生になると急に「社会人の基礎力」を求めがちである。子どものことを子ども抜きに考えるのではなく、できるだけ小さなときから一緒に考えて行くべきであると考え。


今回の第 3 部会ではグループディスカッションを利用して、中学生の率直な意見を聞くこと、大人の感じている子どもの課題と解決策について、子ども自身の考えていることとつぎあわせてみることを試みた。近隣の中学生 5 人（男子学生 2 名、女子学生 3 名）を招き、教育関係者、子どもの育成に係る仕事をしている大人を中心に 15 人ほどが参加した。子どもグループと、大人グループ 3 つの、計 4 グループに分かれてワークショップを進めた。まずは、それぞれのグループに「理想の青年像」を考えてもらい、その特徴（態度、能力、価値観など）を一つずつメモ用紙に書いて、説明しながら大きな画用紙に張った。その後、お互いに各テーブルを回り、意見や感想を述べ合った。大

#### 発達資産を育てる 5 つのアクション

- アクション 1「大人を引き込む」**  
家庭や近隣地域において子どもたちが会える大人とのつながりを強め、あらゆる機会を通して大人が子どもに関心をもつ機会を増やしましょう。
- アクション 2「子どもを動かす」**  
発達資産を増やし、子どもに関心を持つ大人や団体を増やすために、子ども自身の力を使いましょう。
- アクション 3「団体を活性化させる」**  
発達資産の考えを使って、従来の団体を活性化し、ともに一つの共通の目的をもって協力する機会を創りましょう。
- アクション 4「活動を強化する」**  
より豊かな発達資産の構築につながるよう従来の活動内容を見直し、すべての子どもに提供できるように広めましょう。
- アクション 5「人々を動かす」**  
子どもを取り巻く環境をより良くするための地域社会の積極的な変革に向けて、地域のリーダーや指導者、教育政策にかかわる人々、財政支援を行う部局、メディア、地方自治体などに声を届け、さまざまな支援を受けましょう。



人からは「子ども達がこんなことをすでに考えているのを知って驚いた」といった意見が出たのに対して、子ども

	理想な青年像	家庭・地域・学校・行政がしてあげられること
人間性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• いろいろなことに興味があり、それに挑戦する</li> <li>• いろいろなことにチャレンジする</li> <li>• 人の見ていない所で努力する</li> <li>• 粘り強い</li> <li>• いろいろな考え方をすることができる</li> <li>• 人がいまだしたことないようなことを思いつくことができる</li> <li>• 謙虚さと自信を持っている</li> <li>• 自分に自信をもっている</li> </ul>	<p>(家庭) 決めつけないでほしい (学校) 人間関係に気を配って欲しい(いじめ問題など) (学校) 表だけではなく、裏の方も見てほしい (学校) 先生は授業で生徒に当たらないでほしい！</p> 

からは「大人と似たような結果が出て安心した」といったコメントが出た。

次に、先ほどリストアップしてもらった特徴(態度、能力、価値観など)を育てるためには、大人たちはどのようなことができるかということについて、それぞれの支援対策を「家庭」、「学校」、「地域」、「行政」、あるいはその組み合わせがわかるようにメモ用紙に書き、出来上がったそれぞれの模造紙を黒板に張って、全体を見渡せるようにしてから、中学生に対してコメントを求めた。中学生のコメントの中で印象的だったのは、「たくさんの大人の人たちが、これほどまでに熱心に子ども達のことについて考えてくれていることについてとても驚いた」ということだった。言葉や行動にして、きちんと子どもたちに向き合い伝えることの大切さがわかる。大人のコメントをみると、「子どものしっかりした答を聞いて、大人なみに考えていることについての驚きがあった」などがあった。お互いのイメージのギャップが生じた点については、もっと一緒に考えて行く必要があることが確認できた。

最後に中学生に「もっと大人にしてもらいたいことや、訴えたいことはありますか」と聞いたところ、「もっと大人として扱って欲しい」と言うことだった。これは、昨年度に4つの地域で行ったワークショップと同じコメントであった。また、大人側は、今回のワークショップを通して、子ども達をより新しい目で見ることができ、尊重する姿勢があらわれた。参加者全員がもう少し意見交換をしたいと思ったほどであったが、時間がきてしまった。時間後に中学生に質問しに行ったり、グループ内で感想を話し合う姿が印象的であった。

今回のワークショップで得られたことは、家庭や学校のなかで子どもたちがより大人と対等な立場で意見が言える環境や機会をつくることを通して、子どもたちが社会の中で自分の役割や存在価値を感じられるようにすることが必要であるということである。

中学生グループ

態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 他人のことを考えることができる</li> <li>• 自分のことだけでなく、他人のことにも気を配れて、周りがよく見える</li> <li>• 気が利く</li> <li>• 物事の限度がわかる</li> <li>• あいさつができる</li> <li>• 勉強など社会的なことについて一つ一つ理解できている</li> <li>• 一般常識がわかる</li> <li>• 目上の人に対する礼儀がなっている</li> <li>• 礼儀正しい</li> <li>• 礼儀正しい</li> <li>• 常識を知っている</li> <li>• 愛する人、愛してくれる人がいる</li> </ul>	(学校) 礼儀を詳しく教えてほしい (地域) 挨拶を返してほしい (学校) 自分の気分で態度を変えないでほしい。 (例: いつも注意しないことで注意するなど… (地域) 地域の人がお手本を見せる (学校・親) ほめて伸ばしてほしい (家庭) 良いことと悪いことをしっかり教える
スキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 集中力がある</li> <li>• 器用</li> <li>• 人の良い所を見つけることができる</li> <li>• 人のいいところを認めることができる</li> </ul>	(家庭) 子供と学校や友達などの話題で話してほしい (家庭) 温かく見守って欲しい
リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 責任感がある</li> <li>• 自分のやらなければならないことを理解していて、それに責任を持っている。</li> <li>• しっかりと自分の目標をもっている</li> </ul>	(行政) 若者の過ごしやすい様な社会を作って欲しい(就職先など) (行政) 教育に力を入れてほしい (家庭) 物がこわれても工夫して使う (家庭) 親が何でもやってあげるのではなく子どもにやらせる (家庭) 小さい子にゲーム(DS など)をやらせない (学校) 授業をのばしすぎないでほしい (学校) 授業に遅れないでほしい
人間性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の思っていることを人に伝えられる</li> <li>• 自分の意見を言える</li> <li>• はきはきしている</li> <li>• 優しい</li> <li>• どんな事でもどんな物でも大切にできる</li> <li>• 明るい</li> <li>• 友好的</li> <li>• 他人とすぐ話せるようになる</li> </ul>	(地域の人) あいさつ返してほしい! (学校) 一人一人しっかり見てほしい (学校) (先生の) 言葉遣いに気を付けてほしい (学校) しっかり人間関係に目を配ってほしい (行政) 暖房設備とかそついうところも考えてほしい (家庭、学校) 家や学校で話ができる場があると良い (学校) 分からないことをしっかり説明してほしい (学校) 授業開始と終わりの時間を守ってほしい
人生	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人生を楽しんでいる</li> </ul>	(学校、家庭) 分からないことを教えてほしい

## 大人グループ A

	理想な青年像	家庭・地域・学校・行政がしてあげられること
愛	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誰かから愛されている</li> <li>• 自分の立ち位置(おかれている状況)が分かる</li> <li>• 自分も人も大切にできる</li> <li>• 思いやりがある</li> <li>• 愛する人がいる</li> <li>• 自分のことだけでなく、他の人のことも考えて行動ができる</li> </ul>	(家庭) 子どもを愛する、接する時間を長くする (家庭) “あなたは大切な人よ”と常に言ったり、態度で示す (家庭) 映画、小説、コンサート、劇などたくさん出会わせる
自己管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お金の使い方を知っていて、他人の判断ではなく、自分の判断でお金を使う、使わないことを決めることができる</li> <li>• 少しはお金がある</li> <li>• 寄付やチャリティーがあれば、出せる範囲で出すことができる</li> </ul>	(家庭) 子どもから要求あれば渡すのではなく、与えたその中で大切に使いその中で生活をする体験をさせる (家庭) お金の渡し方、与え方を工夫する (家庭) 働く意味や誰のためにやっているのかを、親が子供にきちんと説明する (行政) 外で働いて、人に感謝されて、お金をもらうという経験を小さいうちからさせる (家庭・学校) 家のルールはもっと厳しく、学校のルールはもっと柔軟にしてみる
間 い い 仲	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分を認めてくれる人が周りにいる</li> <li>• 人間として成長していける環境にある</li> <li>• いい仲間がいる</li> </ul>	(学校) クラブ活動に力を入れる (家庭) 小さいうちからたっぷり友だち(できれば異年齢)と遊ばせる (家庭) 子供たちの行動力に関心を持つ
自信	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 得意なことがある</li> <li>• 自分がチャレンジすることをワクワクしている</li> <li>• 子供の頃に楽しい経験あり</li> </ul>	(学校) 一人一人の子どものよい所に気づく、悪い所やできない所ばかり見ない (家庭) 得意なことを、小さなことでも見つける時間を努力してつくる。親の責任をとりもどす

自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の言葉で相手に伝える事ができる</li> <li>自己主張ができる</li> <li>自分の具体的な目標もっている</li> <li>仕事をきちんとこなし、責任感とマナーをもって周りの人と接することができる</li> <li>優しい気持ちで自然や人、動植物に接し、自分一人の時間を楽しめる</li> </ul>	(家庭) 将来の目標を持たせる (家庭) やたらに子どもに物を与えない
地域のユースリーダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会にとけこんでいける</li> <li>誰とでも気兼ねなく話することができる</li> <li>中学生のころから地域とのつながりをもっている</li> <li>地域での成人式(市)仕掛人をしている</li> <li>中・高校生のリーダーの目標となっている</li> <li>中高生に対し体験学習を通じて仲間づくり、社会参加の意義を行ないで示している</li> <li>行動力がある</li> <li>新しい地域リーダーとして成長してきている</li> </ul>	(地域) 中高校生への公民館(地域センター)の解放 (地域) 子どもは地域の将来の担い手なのだという意識をもつべきだ (地域) “子どもは地域の一員”という意識を持ち、地域の行事に参加する機会を作る・役割を持たせる (地域) 中学生や高校生のリーダーを育てるプログラムに力を入れる。もっと自主的な仕組みに育てる(若者がリーダーになれるように)
グローバルな視野	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもって、新聞やニュース、本を読み、社会のことに関心をもっている</li> <li>世界を旅したことがあり、日本人以外の国の人とも上手に付き合うことができる</li> <li>日本・世界の経済が見通せる</li> <li>TPO をわきまえた行動ができ、国際的なマナーも少し知っている、知ろうとしている</li> </ul>	(行政) 海外に行くチャンス子どものときからつくれるよう援助する(教育、お金など) (家庭・学校) 外国語教育に力を入れる (行政) スローガンを大きく掲げて、民間の力を入れる、井の中の蛙的な日本の行政の仕組みを変える
メンタル系	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣食住など自分の生活をきちんと回していける</li> <li>心身共に健康である</li> <li>自由な時間、自分の好きなことをする時間が持てている</li> <li>感謝と一日の反省ができている</li> </ul>	(地域) 地域にある各団体間の連携を深めることにより、誰もが地域の子どもたちの見守りができる (地域) 小中学生への声掛け見守り活動 (地域) 子供に声をかける (家庭・学校・地域) 「ありがとう」と家でも、学校でも、地域でも持って言う、知らない人にも言う (家庭) 家庭で一人一人の目標(人生の目標)について、一年に一回話し合ってみる

## 大人グループ B

	理想な青年像	家庭・地域・学校・行政がしてあげられること
気持ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>感謝する</li> <li>あきらめない</li> <li>ねたまない</li> <li>前向き</li> </ul>	(家庭) 子どもにとってのモデルになれる (家庭) 自立できる子育て (家庭) 自尊心、自信を育てる、誇りをもてる人生を生きる力 (家庭) 生活の基本を身につける (家庭) 手を出しすぎない (家庭) 礼儀作法 (家庭・全) あいさつ
拓けるむらけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅をしてみたいと思っている</li> <li>やりたいこと(将来の職業)に向かって、夢を持ち学んでいる</li> <li>目標を持っている</li> <li>希望に満ち溢れている</li> <li>笑顔を絶やさない</li> </ul>	(地域) 身まもり、声かけ (家庭・学校) 体験できる場、機会を提供 (家庭・地域) 生活を知恵を生活の中で教える (学校・地域) 異世代でかかわる機会を (家庭) 地域との関わりを持つ為、地域の行事には親子で参加 (家庭) 多くの経験をさせる生活面、親子でできることなど (家庭・学校・地域) 月、火、水、木、金、土、日の体験活動 (行政) 文化的条件を整える (地域) 子どもと交わる機械を持って参加を求め交流する。 (地域) 連携、つながり、和の実践 (家庭・学校・地域) 自分(たち)で愉快な行事を創るように支える
アピール	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分をアピールできるものを持っている</li> <li>スポーツ、芸術、文化に興味を持ち行動(実践)している</li> <li>伝統的な技術を持続けていることに生きがいをもつ</li> <li>出来ることと出来ないことを判別できる</li> <li>具体的な人生設計を立てる</li> </ul>	(行政) 子どもたちの声を聞き、役立たせる (行政) 子どもたちの声を聞き取り、反映させる物 (家庭) 自分の身は自分で守る
思いやり	<ul style="list-style-type: none"> <li>弱さを出せる人がいる</li> <li>人の話の聞き上手で困っている人の話を聞き(老人ホームで)</li> <li>サービス行をしている、誰にでも優しい言葉をかけてあげるので、皆ながら好かれている青年、生き生きと動いている</li> <li>弱い立場の人へさりげなく支援ができる</li> <li>自分の考えを持ち相手に伝えることができる</li> <li>他人の意見・気持ちを聞くことができる</li> </ul>	(学校) 身分とは違うバックボーンを持つ人を理解する場を提供 (家庭・学校) 子供の言い分に耳を傾ける (家庭) 子どもの前では親だけど、一人の大人でもあり、親の前では子どもだけど、一人の「人」であることを時々思い出す (家庭) 消費文化に流されない物の買い方、食事の仕方、時間の使い方、食事の仕方、健康の保ち方にライフスタイルを変える (家庭) 親は子どもに対して勉強しろとよくいうが、勉強しやすい環境を作ってあげているか。小さいときに本の読み聞かせをしている子どもの想像をかきたてることをしていたか
仲間	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のおとなと積極的にかかわっている</li> <li>信頼できる仲間がいる</li> <li>仲間と何か熟中していることがある</li> <li>友達をつくる</li> </ul>	(家庭・学校・地域) 叱るべき時には叱る (地域) 気がついたことは地域で育てる

## 大人グループ C

	理想な青年像	家庭・地域・学校・行政がしてあげられること
自己肯定力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 態度は自信にあふれている</li> <li>・ 自分の意見をはっきり言うことができる</li> <li>・ リーダーシップがとれる</li> <li>・ 自分の中で人に自慢できるものがある</li> </ul>	(家庭) 限らない愛をそそぐ、毎日、毎日 (家庭、学校) たくさんの成功体験、ほめる、認める (家庭、学校) その子を認める
能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学力</li> <li>・ 情報を取り入れる力(インターネット、本を読む)</li> <li>・ 物事を合理的に考えることができる</li> </ul>	(地域、学校) 学ぶ場、鍛える場を提供 (学校) やりたいと思うことを引き出し、実現に向けて導く (行政) やりたいことの実現に向けたサポート(財政的支援含む) (行政) 国はグローバルな視点で教育など進める (行政) 行政は横と縦の連携が必要では
情熱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しめる趣味を持っている</li> <li>・ 何にでも興味を示す</li> <li>・ 夢をもって学ぼうとする姿勢がある</li> <li>・ 新しいことにチャレンジしようとする</li> <li>・ 失敗を恐れない</li> <li>・ なんでも努力</li> <li>・ 熱意がある</li> <li>・ 色んなことに挑戦する</li> <li>・ 前向きな発言をする</li> </ul>	(家庭・学校) 目標とする人やものに直接触れる機会をもつ (家庭) 夢を語る(目標を持たせる) (家庭・学校) 難しいことを何度も繰り返す、示す (家庭、学校) 目標(理想像)を持たせる。夢を語る (学校) 講師が情熱をもつ
関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物事を公平な立場で考えることができる</li> <li>・ 人とのネットワーク</li> <li>・ 他人と上手にコミュニケーションを取ることができる</li> <li>・ 友人が多くいる</li> <li>・ 地域・近所との関わりがある</li> <li>・ 協力的</li> </ul>	(家庭) イベントに参加する (学校) 学校外での活動を計画 (親・地域) 大人が見本手本を示すことが大切 (家庭) 親が積極的に人とかかわる(他の人、他の子)姿勢をみせる (家庭) 親子の会話を増やす (家庭、学校、地域) しつけ、あいさつ、礼儀 (地域) 常に見守り、声をかける
性格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハツラツとしている</li> <li>・ 表情が明るい</li> <li>・ 明るい性格で回りに人が集まる社交性あり</li> <li>・ 社交性がある</li> <li>・ 目配り、気配りのできる優しさをもつ</li> <li>・ 相手を思いやる心がある</li> <li>・ 他人の心の痛みが理解でき、思いやることができる</li> </ul>	(家庭として) 自らの生活度に気を付ける (家庭) 親子でベビーマッサージ
金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (生活に必要な) 十分な収入がある</li> </ul>	



## ワークショップ後の参加者コメント:子ども

### 中学生参加者からの感想:

- 思っても、なかなか言うような機会はなかったので、今日、大人たちが自分たちの思っていることを聞いてくれて、とても真剣だったし、いい体験になりました。前に書いた成功している大人になれるように頑張りたいです。今日、本音がいて、いい機会になりました。
- 自分は、学校についてのことを中心に話しました。規則にのっていない人もいれば、逆に先生の方にも少し問題があるのではないかと考えました。教育についての見直しもやって、過ごしやすい環境を作してほしいです。
- 私はこのような大人の方を交流ができて良かったです。大人の方の考えと私達の考えをみんなで分かり合えていたと思いました。私たちの話をすごく真剣に聞いてくださったのでうれしかったです。学校でほめられることはあまりないけどこんな場で話を聞いてもらえたので役立つと良いなと思います。
- 親に「あまりうるさく言わないで」と言ってみたら良い、という意見が心に残りました。親だけではなく、家族全体や友人に対しても、本音が言い合えるような人間関係を築いていきたいと思いました。
- 今日、もっと自分をアピールしてもいいのかなと思いました。やりたいことをやらずにいるのは、もったいないと思ったからです。また、私の周りには、こんな風に子供のことを考えてくれている大人がいるんだと知ることができて嬉しかったです。

## ワークショップ後の参加者コメント:大人

- 参加した中学生は、しっかりとした考えを持っていた。しかし、子どもたちは、いろいろな思い、行動をします。はじまり、基本は「あいさつ」とあらためて感じました。
- 学校教育は、(家庭教育は)、学校、保護者、子どもが同じこと(目標)を分かり合うことが大切と思う。ありがとうございました。
- 自分の思いを言葉にし、それを交流することで、視点を増やし、視野を広げることができました。中学生のみなさんがしっかりした意見を持ち、素直に表現している姿はとってもすてきだったと思います。ありがとうございました。
- 今日参加してくれた中学生には、自信を持って学校内のロールモデルになってほしい。
- 生徒さんが言われることは1つ1つごもっともでした。親として耳が痛いです。
- 公民館行事としてやってきたこと(「あいさつ運動」、「見守り」、「小さな親切運動」など)で、中学生と地域の人との関わりを多くもってきた。今後も続けていく「力」をもらった。
- 地域で、子どもたちからの発信に気づける大人でありたいと思います。
- 素敵な大人になるには、たくさんの「力」が必要だなあと、改めて思いました。いろんなこと学んで、いろんな人に出会いたいものです。
- 子どもたちがものを言える機会や場、環境を用意すべき。トレーニングも。大人、親、地域、学校の方から一方的にしゃべりすぎになっているかも(かまいすぎ、世話すぎ)。
- 子どもたちは広い視野で大人を見て、又モデルとしての大人を求めている。
- あいさつ。日頃から地域の人々を親と一緒にあってあいさつをする。
- 就職について、これからの日本経済は大変厳しいので、外国で勝負できる人間力を身に付けて欲しい。

